

ラジオ放送レポート

ラジオ関西
R4.6.28

「長引く痛みと薬の関係」

令和4年6月28日放送／兵庫県薬剤師会 監事 西田 英之
兵庫県薬剤師会 常務理事 岡本 禎晃

痛みは、身体で何か不都合なことが起きていることを知らせるために現れます。その程度は、軽微なものから、我慢できるが不快なもの、さらに耐えられないものまで様々です。また、短期間出現する急性の痛みもあれば、長く続く慢性的な痛みもあります。身体の痛みは、日頃おこなっていることが出来なくなるなど、私たちの日常生活に大きく影響を及ぼします。本日は長引く痛みと薬の関係に加えてコロナ最新情報についてご紹介したいと思います。



Q1：医療機関の現状は？

全国の新規感染者数について、「減少が続いているが、その減少幅は鈍化しつつある」。新規感染者数を地域別で見ると、「減少を続けている地域もあれば、横ばいまたは増加の兆しが見られる地域もあるなど、感染状況の推移に差が生じている」。特に、一部の人口規模の小さい地域では、クラスターの発生による新規感染者数の急増が見られています。今後の感染状況については、ワクチンの3回目接種と感染により獲得された免疫が徐々に減衰し、7月以降は梅雨明け、3連休や夏休みの影響もあり、接触の増加などが予想され、「今後は感染者数の増加も懸念される」と言われています。またコロナワクチンの4回目接種が始まっています。私も先日、4回目のワクチンを接種しましたが副反応も3回目までと同じで注射部位が少し痛いぐらいで他に気になる副反応はないです。今一度、気を引き締めて、活用できる予防策はとるべきだと思えます。ワクチン効果が一定の効果を発揮していると言えますが、人流の増加以上に警戒が必要なのが新しい変異株です。オミクロン株のBA.2からBA.4や、BA.5に置き換わりが進んでおり、感染拡大のスピードが速い可能性があるようです。感染力だけでなく、毒性もある程度強いとされており、再度、感染予防とワクチン接種を検討していただきたいと思えます。ワクチンメーカーもノババックス社が増え選択しやすくなっています。

話は変わりますが、ニュースでも取り上げられているジェネリック医薬品の供給不足についてお話しします。「これだけの規模と期間で薬が不足したことは、過去に経験がない」というほどジェネリック医薬品メーカーの相次ぐ不祥事がきっかけとなった薬の供給不足が長期化しています。2020年12月に爪水虫などの治療薬に睡眠導入剤成分の混入が判明したGEメーカーが昨年、業務改善命令を受けたのをはじめ、他のGEメーカーでも問題が発覚し、代替需要が集中した他メーカーからの供給も滞るなどして、影響は先発薬を含め広範囲に拡大しています。厚労省によると昨年8月時点で供給に影響が出たのは、全体の2割に当たる約3100品目。日本ジェネリック製薬協会が実施した会員37社への調査では、今年6月14日現在、約2500品目で供給調整が行

われています。医療機関は薬が不足すると、成分が同じ別メーカーの薬に切り替えています。先発薬を含め主成分は同じでも添加剤が違う場合があります。副作用につながる恐れもあります。在庫がなければ、医師が処方箋に「変更不可」とした薬でも処方変更を依頼し、患者への説明が欠かさない状況が続いています。薬不足に新型コロナウイルスの感染防止対策も重なり、薬剤師の業務負担が増しています。薬を調達するための卸業者との交渉に追われ、医師への処方変更依頼も増加。ジェネリックから価格が高い先発薬に変更する場合は、患者さんに、より丁寧な説明が求められ、日々忙しい業務に追われています。



Q2：痛みと心（なぜ痛い？ どこが痛い？ どこで痛みを感じるか？）

まず初めに、なぜ痛い？ なぜ、人は痛みを感じるか？です。痛みは人類最初の安全装置であると言われています。痛みは人間にとって危険信号です。これはすべての生物に共通の感覚で、ハエでさえ痛みを感じると言われています。

痛みを感じない「無痛症」という病気があって、その病気の人は、他の人より怪我が悪化することが多く、統計的に寿命が短いとされています。このことは、例えば、裸足でどこかに足の指をぶつけると、飛び上がるくらい痛いと思います。しかし、正座をしていて足がしびれていると、ぶつけても痛みを感じることはありません。同じように、抗がん剤の副作用で足がしびれている人が、冬にコタツで低温火傷をして、大変なことになる、などということは稀ではありません。

このように、痛みは人に危険を知らせてくれる安全装置です。

そして、どこが痛い？ 足の指をぶつけたから、足の指が痛い気がします。虫歯になったら歯が痛いですが、本当に歯が痛いのでしょうか？危険信号としては、足の指や歯に問題がありますが、痛いと認識しているのは脳です。幻肢痛という症状があります。幻肢痛とは字の通り幻の手や足が痛いという症状です。事故などで手や足を切断した後に、元あった指先が痛い、何もない空間が痛いと感じる症状です。これは、脳の誤作動によるものです。他にも、実際は痛みの原因は治っているのに、痛みが残っている。例えば帯状疱疹後神経痛はよくある症状です。

更に、どこで痛みを感じるか？ 痛みには、脳を感じる痛みと、心を感じる痛みがあります。脳を感じる痛みは今まで述べたように、何かの危険信号か、危険が去った後に残る脳の誤作動による痛みです。一方、心の痛みは、失恋のように大事なものを失った痛みで、医療では対応できない痛みです。

Q3：痛み治療の問題（原因不明の痛みの治療、ドクターショッピング？）

原因不明の痛みの治療と聞くと、原因不明の痛みには効く薬はあるのか？という質問がありますが、これはあります。アスピリンという薬はヒポクラテスの時代から痛み止めとして使われてきましたが、何故効くのかということが分かったのは1970年になってからです。そもそも、痛みは自然に治るので必ずしも薬は必要ありま

せん。ただ、早く痛いのを何とかしたい。や、痛みのせいでできないことがあるので薬を飲みたいということがほとんどだと思います。

治らない病気への対処法として、ドクターショッピングという言葉があります。これは、A医師では良くならないので、B医師へ、B医師も少し良くなったけどやっぱり良くならないのでC医師へ、と次々に医師を変えていくことです。痛みの治療は、最初は少し良くなりますが、また痛くなります。そうすると、別の医師の元へ行きます。すると、そこでも少し良くなりますが、また痛くなって、別の医師へととなります。他の病気の場合は、医師が変われば薬も変わりますが、痛みの場合は、最初は少し痛みが和らいだといわれると、お薬は追加となり、追加、追加、追加となって、お薬でお腹がいっぱいという笑い話もならない状況になります。たくさん薬を飲むということは、お腹がいっぱいになるだけでなく、副作用の原因にもなります。

Q4：これからの痛み治療（痛みとの付き合い方）

最後に、長引く痛みとの付き合い方についてです。急な痛みは原因もはっきりしますので、原因の治療をすることで、痛みも良くなります。しかし、「長引く痛み」、慢性痛とも言いますが、これは薬ではなく集学的治療と言って、リハビリやカウンセリングなどを組み合わせた治療が適応になります。

市立芦屋病院では「お薬調整入院」と言って、リハビリ治療などを行う前に、先ず、増えすぎたお薬を減らす治療を行っています。お薬にはそれぞれの患者さんの思いがあって、なかなか止めるのは勇気があることもあります。しかし、効いていない薬は毒になる可能性があります。

本当に薬の効く痛みかどうかの見極めが重要です。

Q5：最近の痛み止め治療薬

痛みは、原因によって侵害受容性疼痛、神経の障害性疼痛などの分類がありますが、それぞれにあった治療薬があります。炎症性疼痛を含む侵害受容性疼痛（体の組織の損傷によっておこる痛み）は加齢に伴う変形性関節症や関節リウマチ、がんの浸潤による内臓痛などが代表的な疾患です。ロキソプロフェンに代表される抗炎症作用を持つNSAIDsや選択的COX-2阻害薬と呼ばれる痛み止めの他、がんの疼痛などこれらでコントロールできない際に用いられるオピオイド鎮痛剤があります。このほか、腰椎椎間板ヘルニアによる坐骨神経痛などは神経障害性疼痛です。神経障害性疼痛はNSAIDsが基本的に無効であるため、全く異なる治療薬が用いられています。例えば、プレガバリンなどの抗痙攣薬の系統の薬剤や抗うつ薬が用いられます。抗うつ薬の中でも、三環系抗うつ薬とノルアドレナリン再取り込み阻害薬では鎮痛効果が高いことが知られています。最近NSAIDsの貼り薬で高容量のジクロフェナクのテープががん性疼痛に適応を持ち、扱いやすくなりました。この先、がん疼痛以外に使えるとより痛みの効果が幅広く発揮できると思います。最近の鎮痛剤の市場は長年汎用されてきたロキソプロフェン、ジクロフェナクナトリウム、アセトアミノフェン、に加え胃の負担が少ないセレコキシブが内服の主流です。飲み薬は、有効成分の鎮痛作用が患部に届きやすいことから強い効果が期待できます。一方、塗り薬や貼り薬は、有効成分を皮膚から取り込むことで効果を発揮し、胃への負担が少なく副作用を心配せずに使用できます。ピンポイントで患部に効くので、肘・膝・手首など局所の痛みを解消するのに適しています。また、使った直後から鎮痛成分がじわじわと浸透して作用しますので、急な打ち身などにも効果的です。

貼り薬ではケトプロフェンテープやロキソプロフェンテープが幅広く使用されますが、使用制限があるがよ

り効果の強いエスフルビプロフェンもあります。その他、塗り薬はシップでかぶれやすい方に向いています。ロキソプロフェンゲル、ジクロフェナクゲル、ケトプロフェンローションがあります。また、神経障害性疼痛にはプレガバリン、ミロガバリン、デュロキセチンがあります。

Q6：新型コロナの更なる変異の先は

感染拡大に一定の落ち着きが見られる新型コロナウイルス。この夏は大きな流行の可能性は低いという見方が出ていますが、何分、未知の領域で、変異ウイルスの行方はどうなるのか気になるところです。再び感染拡大はありうるので、機会があればワクチンを打ち、基本的な感染対策をすることに尽きると思います。今年から来年にかけてはオミクロン株系統の連続的な進化はさらに続く可能性が高いと言われています。感染や追加接種で免疫を持った人が増えているため、当面は感染拡大を抑えることは可能ですが、免疫の効果が下がり、再び感染者が増えてくることもあり得ます。長期的にはこれまでの風邪のように、同じウイルスの道をたどる可能性もありますが、どのように変異していくかはわかりません。今後、落ち着くまでに2～10年はかかるという専門家もいます。しばらくは、この新たな変異ウイルスの動向を注意深く監視し、臨機応変に対応していくことが大切です。それとこの二年間発生しなかったインフルエンザの流行が懸念されます。

Q1, 5, 6は西田が、Q2, 3, 4は岡本が主にお答えしました。

(コロナ治療施設の情報や最新ニュースを話題に生放送をしていますので、参考文献等は省略させていただきます。)



毎月最終火曜日、12時15分頃から10分間（生放送につき多少前後します。）
兵庫県薬剤師会が担当して、健康や薬についてお話ししています。

スマートフォンやパソコンなどから「radiko」の利用で放送後一週間以内なら
手軽に聴けますのでぜひお聴き下さい。